

石井記念友愛園



石井記念友愛社の基本理念

「天は父なり 人は同胞なれば 互いに相信じ 相愛すべきこと。」

大正2年 石井十次

基本目標（方針）

(1)『**自然主義**』健康をつくります。日本の自然・風土・文化・農業との触れ合いを通し、人格と体を養う。自然教育は情操を豊かにし「敬天」の感性を育てる。

実践目標 ①自然への畏敬と感謝の気持ちを育てます。

②食育教育を実践します。

③自然教育・労作教育を実践します。

(2)『**家族主義**』家族をまもります。相信・相愛の原点は、家族の絆の中にあり、親を敬い祖先を敬うことから心の成長は始まる。

実践目標 ①家族への感謝の気持ちを育てます。

②祖先への敬いの気持ちを育てます。

③家族の絆を大切にします。

(3)『**友愛主義**』家庭をささえます。人は皆同胞。自立に向けて、互いにしつけ・教育・支援し合い、そして、先人達の築いてきた文化を次世代に伝えていく。

実践目標 ①養育・教育・自立に関して、できるだけ支援（相談・援助）をします。

②日本の家庭の文化、お年寄り、障がい者を大切に守ります。

③子ども達の自立へ向けてのしつけ・教育を実践します。

(4)『**自律主義**』自立支援します。自立は自律。人倫を明らかにすること、つまり克己復礼こそが本来の教育の目的であり、江戸時代の教育の鍛練・錬磨に学び、自立教育をめざす。よって自らの個性を統御し主体性の確立した行動力・実践力を身につけた人格を養う。

実践目標 ①伝統的挨拶、礼儀、基本的生活習慣を学びます。

②先人の児童学習法に学びます。

③武道、茶道、花道等、日本の伝統文化を学びます。

到達目標 友愛の地域社会づくり

福祉施設が、縦割り社会の中で個々に働くのではなく、関係機関や住民と一体となりながら、様々な社会資源との連携の下、年齢や障害の有無を超えた家族的共生社会の実現を目指します。

児童養護施設について

「すべての児童は、個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、
みちびかれる。」(児童憲章4)

「すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、
みちびかれる。」(児童憲章12)

「保護者のない児童（乳児を除く。ただし、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある
場合には、乳児を含む。以下の条において同じ。）、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を
入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを
目的とする施設とする。」(児童福祉法第41条)

＊「社会の一員としての責任を自主的に果た」し、「よい国民として人類の平和と文化に貢献する」社会人に互いに
育ち合うように支援するのが職員の仕事です。

石井記念友愛園の概要

営業主体	社会福祉法人石井記念友愛社
理事長	児嶋 草次郎
法人役員	理事6名 評議員7名 監事2名
法人経営施設	児童養護施設3 自立援助ホーム1 保育所9 認定こども園1 乳児院1 老人デイサービスセンター1 障害者通所施設1 他

園 長 児嶋 草次郎

定 員 45名（小規模児童養護施設「じゅうじの家」6名）

施設の職員数

友愛園27名	園長1名 書記1名 指導員10名 個別対応職員1名 家庭支援専門相談員1名 里親支援専門相談員1名 心理担当職員1名 職業指導員1名 保育士3名 栄養士1名 調理員等5名 非常勤職員1名
じゅうじの家3名	指導員3名

施設の運営指針

処遇理念	「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」 ヨハネによる福音書15章13節
------	---

処遇目標 豊かな人間性を有し、また、生活習慣の確立できた人間として、変動する社会に
主体的に自立参加(自己実現)していける、たくましい児童に育てる。

- 重点目標
- ① 社会に通用する基礎学力と基本的生活習慣の養成。
 - ② 個別指導による個性の伸長と自我の確立。
 - ③ 集団生活を通しての責任感と社会性の養成。
 - ④ 労作による情操教育。および精神力(耐性)、実践力(行動力)の養成。
自律教育による自律力・自立力の養成。
 - ⑤ 親(保護者)との関係改善と支援。

沿革

1887年（明治20年）	石井十次岡山孤児院開設
1914年（大正3年）	石井十次没
1926年（大正15年）	岡山孤児院解散
1945年（昭和20年）10月	「石井記念友愛社」設立 児嶋琥一郎初代理事長就任
1948年（昭和23年）1月	児童福祉法施行により養護施設として認可
1952年（昭和27年）5月	「石井記念友愛社」社会福祉法人として許可
1977年（昭和52年）10月	「ベトナムの家」 開設 （平成6年12月閉鎖）
1979年（昭和54年）12月	「石井十次資料館」開館
1991年（平成3年）1月	児嶋草次郎第二代理事長就任
1992年（平成4年）7月	児嶋琥一郎初代理事長永眠（78歳）
1997年（平成9年）3月	石井記念友愛園 園舎新築落成
1997年（平成9年）9月	石井記念友愛社後援会設立
2006年（平成18年）4月	地域小規模児童養護施設「じゅうじの家」 開設
2007年（平成19年）1月	「じゅうじの家」にて高鍋町子育て短期支援事業 （トワイライトステイ・ショートステイ）開設

児童状況

令和2年8月現在

（友愛園）

	幼児	小学生						中学生			高校生			計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
男	2	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	2	2	23
女	2	1	2	0	2	3	1	1	3	2	1	1	0	19
計	4	2	3	1	3	4	2	3	6	5	4	3	2	42

県立高鍋高校	1名
県立高鍋農業高校	3名
県立佐土原高校	2名
県立妻高校	2名
中央支援学校	1名

（じゅうじの家）

	幼児	小学生						中学生			高校生			学生	計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男															0
女							1					1	2		4
計							1					1	2		4

県立高鍋高校	1名
県立高鍋農業高校	1名
県立宮崎中央支援学校高等部	1名

年間の主な行事

4月		5月		6月	7月	8月			9月	10月		11月	12月			1月		2月	3月												
歓迎レクレーション		高校生自覚旅行		田植え	ウォークラリー大会	田植え慰労外食		児嶋先生記念式典	児童養護施設県球技大会	稲刈り	キャンプ	盆帰省	稲刈り慰労外食	外食テールマナー	一泊旅行（中・高生）	日帰旅行（幼・小生）	収穫感謝祭前夜祭	収穫感謝祭 23日	駅伝マラソン大会	クリスマス会 25日	餅つき大会	正月帰省	10kmハイキング	嵐あげ大会	石井先生記念式典 30日	20kmハイキング	外食テールマナー	お別れレクレーション	お別れ会	苗代	春休み帰省



石井十次のロマン

石井十次は、慶応元年（1865年）、宮崎県高鍋に生まれました。明治15年（17歳）、岡山県の医学校に入学し、医者をめざします。明治20年（21歳）、ある村の診療所で実習をしている時、貧しい母親から男児1人を預かり、それが児童福祉・教育事業へのきっかけになります。明治22年、児童福祉・教育に専心する決意をし、医書を焼き、医学校を退学してしまいます。石井十次23歳の時です。

明治24年、名古屋地方を襲った濃尾震災による被災児93名を救済、明治39年には、東北地方一帯の冷害による被災児救済により、施設児童数は1,200名に達します。施設内に幼稚園、学校も作り、一貫した養育・教育を行いました。明治27年頃から石井十次は、フランスの思想家、ジャン・ジャック・ルソーの「エミール」の感化を受け、宮崎県西都市茶臼原で「自然・労作」教育をやろうと決意します。そして、岡山から宮崎へ大移住をします。塾舎、学校などもことごとく解体し、船で運びました。石井十次は、大正3年、志なかばにして倒れました。49歳でした。石井記念友愛社は、石井十次の愛や理念を継承し、その夢とロマンを追い求めます。



石井記念友愛園

〒884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644 番地 1

TEL0983-32-2025 fax0983-32-3916